

# 群馬県学校体育研究連合会

群馬県学校体育研究連合会会長

渡邊 武司（太田市立城西中校長）

## 1 本会の活動概要

### (1) 目的

この会は、学校体育関係機関の連絡・提携を図り、併せて学校体育に関する研究・調査を行い、以て学校体育の振興に寄与することを目的とする。

### (2) 組織

この会は、県単位の小学校・中学校・高等学校の学校体育研究団体及び学校体育関係の諸機関を以て組織する。

- ①会長は、各研究会長から選出する。副会長は、前記選出以外の2名及び事務局の所属長をもって構成する
- ②理事は、各研究会の会長・副会長・理事長または事務局長及び本会事務局の所属長、事務局代表1名をもって構成する。
- ③理事長は事務局代表（係長相当職）をあてる。
- ④監査は、各研究会の監査の代表1名（3名）で構成する。
- ⑤顧問は、群馬県学校体育研究連合会の会長経験者に依頼する。
- ⑥参与は、群馬大学教育学部保健体育講座教官及び県内各市学校体育主管課長に依頼する。

### (3) 主な事業

- ①学校体育優良校等の表彰
- ②学校体育の研究・調査
- ③学校体育に関する講習会・研究会等の開催
- ④機関誌の刊行
- ⑤その他、この会の目的を達成するために必要な事業

## 2 平成25年度「群馬県学校体育研究発表大会」の紹介

平成25年11月20日(水)13時から、群馬県総合教育センター講堂において、小学校、中学校、高等学校、行政関係者等 計274名の参加を得て開催された。開会式の中で、平成25年度の群馬県保健体育優良校7校ならびに功労者14名の表彰を行ったのち、中学校保健体育研究会が、代表して全体発表を行った。

## (1)群馬県保健体育優良校・功労者表彰

### ①優良校

番号	校種	学校名	校長名
1	小学校	前橋市立元総社南小学校	坂西 秀昭
2	〃	高崎市立東部小学校	島崎 賢二
3	〃	高崎市立馬庭小学校	白石 政子
4	中学校	藤岡市立北中学校	新井 和良
5	〃	安中市立松井田北中学校	今井 典幸
6	〃	東吾妻町立東中学校	加藤 利明
7	〃	みどり市立東中学校	荒居 幸子

### ②功労者

番号	推薦校種	氏名	所属	職名
1	小学校	荻原 由昭	前橋市立元総社北小学校	校長
2	〃	金子 淳二	みどり市立笠懸小学校	校長
3	〃	根岸 郁夫	前橋市立中川小学校	前教諭
4	〃	野口 勝禎	桐生市立東小学校	校長
5	〃	原田 和博	高崎市立寺尾小学校	校長
6	〃	松村 敏之	渋川市立中郷小学校	校長
7	中学校	高坂 哲也	前橋市立第七中学校	前校長
8	〃	下山 重之	伊勢崎市立宮郷第二小学校	校長
9	〃	館野 勉	桐生市立新里中学校	教諭
10	〃	中村 裕子	藤岡市立北中学校	前校長
11	〃	向田 敏子	桐生市立境野中学校	教諭
12	高等学校	伊藤 榮二	群馬県立前橋西高等学校	前校長
13	〃	荻野 勝	群馬県立前橋清陵高等学校	前教諭
14	〃	立見 賢治	群馬県立高崎商業高等学校	前校長

## (2)全体会発表

意欲をもって主体的に学ぶ生徒の育成

— 球技（ベースボール型）における課題解決的な活動の工夫を通して —

明和町立明和中学校

教諭 長谷 周作

### 【全体会の様子】



### (3)部会別発表

#### <小 学 校 部 会>

体力の向上と心の成長をねらいとし、地域に根ざした競技を取り入れた活動

— 学校と地域が連携したホッケー競技への取組を通して —

みなかみ町立月夜野北小学校 教諭 栗原 和馬

自ら進んで健康な体をつくる「元気はつらつ東部っ子」の育成

— 生活習慣の見直しを通して —

高崎市立東部小学校 教諭 中山 拓哉

仲間と関わり合い高め合うソフトバレーボールの指導の工夫

— チームタイムに着目して —

玉村町立上陽小学校 教諭 三谷 悠也

#### <中 学 校 部 会>

武道必修化に伴う武道授業の安全についての実態調査

群馬県中学校保健体育研究会調査研究部

自ら考え、ともに学び合う生徒を育てるための授業の工夫

— 言語活動や体験活動を取り入れて —

吉岡町立吉岡中学校 教諭 瀬戸 涼司

学校全体での体育的活動を通して、活力ある生活の基礎を身に付けた生徒の育成

— 「チーム箱田」としての体育的活動の取組から —

前橋市立箱田中学校 教諭 小川 真太郎

#### <高 等 学 校 部 会>

女子が体育で行うサッカー — 弱みへの取組 —

関東学園大学附属高等学校 教諭 鈴木 佳奈子

心拍数を利用した持久走の実践

群馬県立伊勢崎高等学校 教諭 吉澤 正

体力向上への取組 — 体づくり運動を通して —

群馬県立万場高等学校 教諭 田村 剛

命の大切さ、生を考える保健の授業—実践場面に応じた心肺蘇生法や応急救護を通して—

群馬県立中之条高等学校 教諭 濱名 智弘

#### 【各分科会の様子】



## 学校全体での体育的活動を通して、活力ある生活の基礎を身に付けた生徒の育成 ～「チーム箱田」としての体育的活動の取組から～

前橋市立箱田中学校  
小川真太郎

### I 主題設定の理由

本校は前橋市の南西にある東地区に位置し、全校生徒405名、特別支援学級を含む13学級の昨年度開校30周年を迎えた中規模校である。生徒の実態として、学習や部活動へ意欲的に取り組み、挨拶や返事などが比較的良好に行える。また、学力は母集団として前橋市内でも上位群にある学校である。しかし、その反面、物事に対する集中力や持続力が弱く、体力面でも持久力が前橋市内の学校でも下位群に属している。また、集団の中で速やかに行動することができない生徒も数名見られる。

そこで本校では、学習指導要領「総則 第1章 第1の3」(資料1)の「日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮しなければならない。」に着目し、生徒一人一人が健康・安全で活力ある生活の基礎の育成できるように生徒の実態や総則の理念、そして本校の「学校教育目標」や「目指す生徒像」(資料2)から、保健体育科の授業の時間はもとより、学校全体で集団意識を高く持たせ、集団の「和」を大切にしながら様々な体育的活動に適切に取り組ませていくことによって、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるようにしたいと考えた。

#### 資料1 学習指導要領 総則 第1章 第1の3

##### 総則 第1章 第1の3

学校における体育・健康に関する指導は、児童の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。特に、学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、体育科の時間はもとより、家庭科、特別活動などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めることとする。また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮しなければならない。

#### 資料2 前橋市立箱田中学校の学校教育目標(平成22・23年度)

##### 学校教育目標

- (1)人と環境を思いやり、進んで実践できる生徒
- (2)健康を保ち、進んで体を鍛える生徒
- (3)ねらいを持ち、自主的に学習に取り組む生徒

##### 目指す生徒像

は はげみ、つとめる生徒  
こころゆたかな生徒  
たくましい生徒

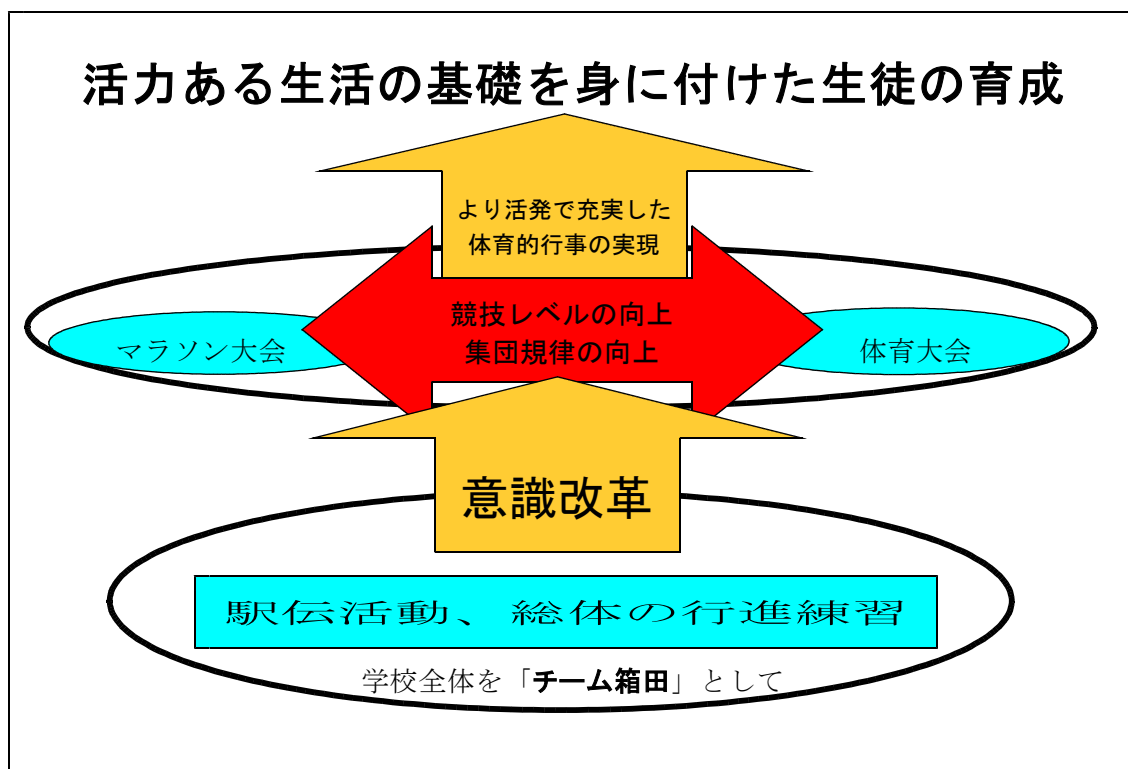
### II 研究のねらい

現代社会において、仲間意識や様々な場面で集団や組織として速やかに行動することが求められているが、自己中心的な考えや欲求の強さ、コミュニケーション能力の不足により、集団の中で人間関係が作れず、孤立してしまったり、情熱を失ってしまったりする人がいる。このような問題を解決していくためには学校教育の中において、集団の中で一人一人がしっかりとした考えをもって適切な行動がとれるようにならないといけない。生徒たちは将来の社会で、事業所など何らかの集団や組織に所属し、目標や目的に向かい、仲間と協力しながら物事に取り組んでいく。それぞれの集団や組織が掲げる目標や目的を達成していくためには、集団や組織としての理念や信念をしっかりと捉え、様々な人とコミュニケーションを取りながら目標・目的の達成に向けて努力していくことが必要である。

そのため、本校では学校全体を「チーム箱田」という一つの集団として、意識改革を行い、集団意識を高く持たせ体育的活動に取り組みさせていく。これによって、体力の向上を図りながら充実した体育的行事を実現していき、実社会の集団や組織で必要とされる一人一人の態度、姿勢、在り方などを育み、活力ある生活を送るための基礎を身に付けさせたい。

### Ⅲ 研究の概要

#### 1. 研究構想図



#### 2. 研究の実践

(1) 前橋市中学校駅伝大会へ向けた「チーム箱田」としての取組

##### ① 全校職員による駅伝活動のための組織作り

全校体制での駅伝活動の取組を明確化するために、全教員へ取組の方針についてのアンケート調査を行い、学校としての方向性を検討した。その結果、アンケートの集計に基づき組織的に駅伝の活動を行っていくこととした。学校全体としての組織作りでは、まず役職を定め、校長を顧問、教頭を部長として、以下教員の役割に応じた配置を行った。

##### ② 全校集会での呼び掛け

全校集会で「チーム箱田」としての本年度の駅伝活動の意義や価値についてのガイダンスを校長、体育部の教員が行い、「やればできる」「男女県大会出場」を合い言葉に、生徒の意識の改革を図った。そして、ガイダンス終了後、駅伝活動参加希望者を募り、大会までの練習計画、選抜選手の試走計画、大会当日の動きを資料として提示し、生徒一人一人に駅伝活動に対する見通しを持たせた。この結果、参加希望生徒が約200名となり、開校以来最多の人数で駅伝活動に取り組んでいくこととなった。

##### ③ 練習計画の立案

校長、教頭、駅伝の朝練習に参加できる教員を中心に大会までの練習の予定や内容を決め、夏休みは毎朝7時から8時までの1時間、2学期は7時15分から45分までの30分と定め、計画的に練習を行った。

##### ④ 練習参加全生徒で臨む駅伝大会

選手・登録選手を問わず、大会当日は夏休みから練習に参加した生徒を連れて「チーム箱田」として大会会場へ。開会式へも全員が開会式会場脇にしっかりと整列し、選手と同じような参加意識を持



たせ、開会式に臨ませた。また、応援も大会コースの各場所へ、のぼりを持って配置し、選手に対して絶え間ない声掛けによる応援を行った。

⑤ 駅伝大会、校内マラソン大会での成果

このような駅伝活動の結果、市駅伝大会では、18年ぶりに男女で県大会出場を決め、校内マラソン大会では校内新記録が5つ誕生した。



〈市駅伝開会式での本校生徒の様子〉



〈市駅伝大会での本校の様子①〉



〈市駅伝大会での本校の様子②〉

学校通信(平成22年度) よき学友と 前橋市立箱田中学校「学校だより」 平成22年 10月12日 第34号 発行者:校長

### 男女とも県大会決める! 市駅伝大会ともに8位

9日(土)、前橋市総合運動公園陸上競技場で行われた市駅伝大会で、男女とも念願の県大会出場を決めました。あいにくの雨天の中で、女子が10時にスタート、各校の強豪がひしめく第一区で金子が好位置で2区角田へ、角田は、最後トラックに入り、3、4人を抜くがんばりを見せ、3区九須、4区須田へ。そしてアンカー阿久津が3年生の意地を見せ、最後まで猛進の兩輪中を寄せ付けず、8位でゴールイン。見事に県大会への切符を手中にしました。

続いて男子が11時にスタート、女子8位が見つめる中、激戦区1区で石塚が8位の好位置で入り2区山口へ。3区補給、4区前原をキープするとともに前との距離を縮めてアンカーの樋口へ、前を行く桂重中との距離をさらに縮めて残り500mのデッドヒート、トラックに入りバクスタードを抜けられ、声援がさらに高まる中、あと100mのところまで猛進とダッシュして抜き去り8位でゴールイン。男子も県大会を達成。男子も県大会を達成。

**男子4位、女子7位** また、男女ともオープンチームも出場し、こちらも大変よく頑張りました。男子が4位、女子が7位の健闘を見せました。

### 応援の作戦も

この大会へは、一緒に練習に取り組んできた生徒がほぼ全員応援に当たりました。コースに満遍なく応援生徒を配置するとともに、一番苦しくなる最後の上下り坂の所に大勢を配し、応援が途切れず選手が力をもらえるよう配慮しました。それだけの場所での盛んな声援が選手に大きな力になったことでしょう。

### 全員で勝ち取った順位

前号でも紹介しましたが毎日100名以上の生徒達が毎日練習を続け、先生方も常に10人以上が一緒に走ったり励ましたりしてきました。少人数ではできない奮闘をこの100名以上の仲間が支え、念願の目標が達成できたのだと思います。“やればできる”箱中生全員で勝ち取った順位です。

**区間賞も! 祝 女子2区 第3位:角田有良 男子4区 第3位:前原友希**

《Aチームのメンバー》

1区	2区	3区	4区	5区	6区
女子 金子英哉	山田有良	丸橋 晃	須田雄希	阿久津崇月	樋口聖士
男子 金子英哉	山田有良	丸橋 晃	前原友希	黒澤健貴	樋口聖士

《オープンチームのメンバー》

1区	2区	3区	4区	5区	6区
女子 小井上瑠	田口知沙	関口ねね	本間愛理	仲小夏	内田大貴
男子 山崎紅太	今井喜次平	川島達哉	船野和哉	佐藤功紀	内田大貴

県大会 11月13日(土) 渋川市総合運動公園陸上競技場及び周辺コース  
9:00開会式 女子発走10:00 男子発走11:00

〈学校だよりでの駅伝大会の報告〉

学校通信(平成22年度) よき学友と 前橋市立箱田中学校「学校だより」 平成22年 10月29日 第37号 発行者:校長

### 激走! マラソン大会 1年丸橋:新記録、3年石塚:タイ記録

27日(水)朝は急に冷えましたが、好天に恵まれ絶好のコンディションで第28回マラソン大会を行いました。「苦しいのは皆同じ、この苦しさから逃げずに自分で自分を奮められる走りをしてほしい」の期待を全校生徒がよく応え、どの学年もひたむきな取組を見せました。その結果、大会新・大会タイ・学年新記録など、好記録が続出するハイレベルな大会となりました。これまでの練習の成果と当日の頑張りでほとんど全生徒が自己新記録を更新出来たのではないかと感じます。【3年男子のトップ争い】

PTA役員、交通指導員の方々に感謝 PTA本部をはじめ役員の皆様、また、交通指導員の方々に交通指導や救護、賞状作成などの業務に当たっていただきました。朝早くから大変お世話になり、ありがとうございました。

《女子の上位入賞者》 ★:総合新記録 ◎:学年新記録

順位	1年生	2年生	3年生
1	丸橋 夢 7:59*14	角田 有良 8:12*04	金子 英哉 8:09*55
2	小井上 瑠 8:44*18	須田雄希 8:27*87	阿久津崇月 8:38*09
3	田島 博志 8:53*36	本間 愛理 8:45*78	関口 ねね 8:02*84
4	野野 紗帆 8:56*40	大友みのり 9:20*07	関口 ねね 9:04*74
5	野野 紗帆 8:56*40	小島出菜穂 8:53*13	仲 小夏 8:08*84
6	山崎 紅太 9:08*38	山崎 紅太 9:08*38	野野 紗帆 9:27*83
7	丸橋 夢 9:01*37	佐藤 功紀 9:31*41	井上 佳菜 9:30*65
8	吉澤 美菜 9:09*79	西山 裕奈 9:39*66	長井 翠佳 9:32*49
9	金子 英哉 9:27*41	高林 美奈 9:41*11	伊藤 聖 9:38*35
10	野野 紗帆 9:30*54	船野 和哉 9:41*85	野上 優衣 9:40*75

《男子の上位入賞者》 ★:総合タイ記録 ◎:学年新記録

順位	1年生	2年生	3年生
1	金子 佑介 12:39*02	多原 恭弥 11:47*94	石塚 亮多 11:42*24
2	田中 拓六 12:46*22	山崎 新太 11:57*04	山口 朝成 11:48*33
3	丸橋 夢 12:49*58	船野 和哉 12:03*16	内田 大貴 11:58*37
4	山崎 紅太 12:50*32	佐藤 功紀 12:08*03	黒澤 健貴 12:08*65
5	細川 悠介 13:00*74	船野 和哉 12:14*47	船橋 健太 12:13*46
6	清水 潤哉 13:05*28	本間 愛理 12:24*41	野野 紗帆 12:14*84
7	船橋 健太 13:07*37	関口 ねね 12:35*26	樋口 聖士 12:21*82
8	船橋 健太 13:13*47	本村 颯西 12:44*51	本間 愛理 12:23*54
9	船橋 健太 13:24*43	野野 紗帆 12:52*02	中世雄 文 9:27*83
10	船橋 健太 13:27*19	今井喜次平 12:44*78	黒澤 健太 12:29*32

《総合順位》

男女総合		2年生		3年生	
男子	3組	男子	4組	男女総合	男子
女子	3組	女子	1組	2組	4組
男子	1組	3組	1組	4組	1組
女子	1組	3組	1組	4組	1組

【1】最前走者を激励しながら先生が伴走、6回全部伴走  
【2】3年女子【PTA】役員の声援と誘導、大きな励みに1】

〈学校だよりでの校内マラソン大会の報告〉

(2) 前橋市中学校総合体育大会開会式へ向けて「チーム箱田」としての学校全体での取組

① 保健体育の授業での集団行動

教科としての保健体育の授業で、オリエンテーションの内容の集団行動において、姿勢、方向転換、集合・整頓、列の増減、行進の内容を行った。特に行進では、前橋市中学校総合体育大会開会式での行進に向けての意識を持たせるため、昨年度の本校の行進のVTRを視聴し、意識を高めながら動作の確認や練習を行った。

② オーディションによるプラカード、旗手、号令係りの選出

例年、生徒会や体育委員などの中から3学年の教員がプラカード、旗手、号令係を選出していたが、本年度は「チーム箱田」として生徒たちの意欲や気持ちを全面に引き出すため、希望者による公開オーディションを行い、各役割を決めた。オーディションでは号令に合わせた集団行動、行進の審査を行い、合計得点の高い順に男女の比率を踏まえながら各役割を決めた。



### ③学校全体での行進練習

学校全体で共通理解が図れた行進指導が行えるように、行進練習の詳細な実施計画を記載したマニュアルを全職員に配布し、同一歩調で指導を行った。また、オーディションによって選出されたプラカード、旗手、号令係りが「チーム箱田」のキャプテン的な役割として練習開始挨拶の号令を掛けたり、全体への声掛けをしたりするなど生徒たちが自ら中心となって全体練習を行った。

### ④学年集会や放送委員会による校内放映による意識改革

各学年の学年集会では、学年の体育委員が学校単位の「チーム箱田」として行進を行う意義や学校としての目標を発表して、生徒の意識を高めた。また、昨年度素晴らしい行進を行っていた他校のVTRや前日に行った自分たちの行進練習の様子を放送委員会が昼食時に校内テレビで放映し、自分たちの上達の様子を確認したり、新たな課題を見出したりした。



＜保健体育の授業でのVTRを視聴＞



＜学校全体での行進練習＞



＜市総体開会式での本校の行進＞

## IV 研究のまとめ

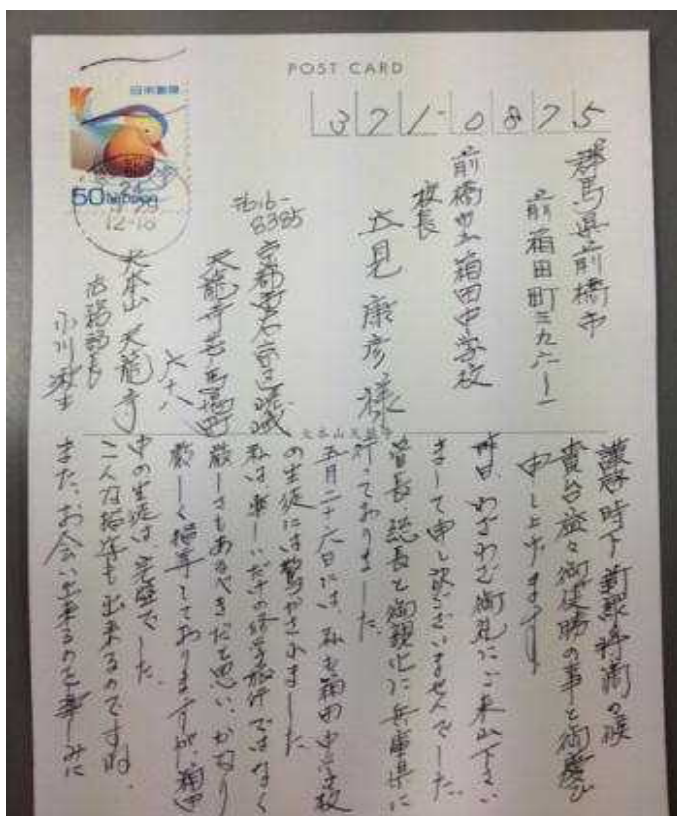
「チーム箱田」として駅伝活動や前橋市中学校総合体育大会開会式へ臨むことにより、生徒達は何事にも意欲的に取り組む姿が多くなり、活力ある生活に自ら進んで取り組もうとしている様子がうかがえた。駅伝活動では「チーム箱田」としての練習の成果が18年ぶりの男女県大会出場として結果に現れた。このことが一人一人の自信となり、本年度の前橋市中体連総合体育大会では、本校での県大会出場生徒が43名と例年の約2倍となった。また、22年度から「チーム箱田」として学校全体で集団行動に意識をおいた指導を実施し、規律ある生活を促してきたことによって、学校行事などでもその成果が現れ、京都で一番厳しい座禅体験と言われている嵐山天竜寺の法務部長より、姿勢、態度、行動に対してのお誉めの言葉をいただくことができ、生徒たちの自覚が更に高まった。

以上のようなことから、学校全体を「チーム箱田」という集団として、「和」を大切にするという意識改革を行い、集団意識を高く持

たせながら体育的活動に取り組ませていくことは、体力の向上を図りながら充実した体育的行事を実現するだけでなく、実社会の集団や組織で必要とされる一人一人の態度や姿勢、在り方などを育み、活力ある生活を送るための基礎を身に付けていくことに有効な取組であった。

## V 今後の課題

本研究での取組を更に効率よく継続的に行っていくために、人事異動に伴い入れ替わる校務分掌や校内組織図との関連を踏まえ、計画の見直しを行っていく必要があると考えている。



＜京都嵐山天竜寺法務部長からのはがき＞